

平成 19・20 年度 JSL カリキュラム実践支援事業実施報告書【授業実践】

実施団体名【 伊丹市教育委員会 】

1 学習活動の実際

(1) 学習指導要領での指導学年と領域 第 4 学年 ( 量と測定 )	
(2) 単元名または活動名 「 面積 」	
(3) 対象児童の実態 (1 人)	
A 児	第 4 学年 国籍 (中国) 母語 (中国語) 在籍年数 (4 年)
	<p>〈日本語の力〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・あいさつができ、具体的な指示も理解できる。</li> </ul> <p>〈在籍学級での学習参加の様子〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・日本語による授業はほぼ理解できている。さらに、既習の学習内容も概ね理解できている。しかし、課題に集中したり粘り強く取り組んだりすることは苦手であり、学習してことが定着したとは言えない学習内容も多い。</li> <li>「面積」は 1 年時に「ひろさくらべ」で学習しているが、いわゆる「単位量あたり」の考え方については理解していない。</li> </ul> <p>〈学習環境等〉</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・宿題は必ず行い、提出するという学習習慣は定着している。</li> </ul>
(4) 目標	
◇【教科指導の目標】	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・面積の概念がわかり、公式の意味がわかる。</li> <li>・大きな面積や複合面積を求めることができる。</li> </ul>	
◆【日本語指導の目標】	
<ul style="list-style-type: none"> <li>・「ひろさ」をくらべ、どちらが広いか表現できるようになる。</li> <li>・「たて 1 センチメートル、よこ 1 センチメートルの広さを 1 平方センチメートルと言います」と面積を求める公式を正確に表現できる。</li> <li>・「長方形の面積は「たて×よこ」で求めることができます」と面積の求め方をはっきり表現できる。</li> </ul>	

## 2 学習活動

指導者（学級担任）、指導補助者（日本語指導担当教員）			
全体の時間数（10 時間）			
学習活動の状況、指導内容	活動方法	指導上の留意点	有効だった指導等 ◇教科指導について ◆日本語指導について
①ワークシートにより面積の意味を、試行錯誤しながら理解する。	在籍学級 同室複数 指導	○1 平方センチメートルあたりの量を視覚化させるために、補助線を用いて思考の支援とする。	◇A-4 経験を確認する① T「1年で『ひろさくらべ』をしましたね。」 ◇H-5 条件的に考える⑤ T「どうすれば、広さを比べることができますか。」 ◆K-5 分かったことを表現する① T「どんなことがわかりましたか」
②～⑤教科書の問題を解くことで、面積の求め方を理解する。	在籍学級 同室複数 指導		◇時間をかけて丁寧に取り組ませる
⑥～⑦教科書の問題を解くことで、大きな面積を理解する。 ・大きな面積の単位「平方メートル」「平方キロメートル」	在籍学級 同室複数 指導		◇新聞紙を用いて、1 平方メートルの正方形を作成し、実体験させる。 ◆F-6 命名する① T「言葉を声に出して、覚えましょう。」
⑧～⑨ワークシートを用いて、複合面積の求め方を理解する。	在籍学級 同室複数 指導		◇H-4 条件的に考える④ T「どうすれば、広さがわかりますか。」

<p>⑩教科書「たしかめ道場」を解くことでまとめとする。</p>	<p>在籍学級 同室複数 指導</p>		<p>◆K-5 わかったことを表現する ① T「面積の学習で、わかったことを発表して下さい。」</p>
----------------------------------	-----------------------------	--	---

### 3 成果

<p>① 対象児童に対する成果</p> <p>本單元では1平方センチメートルという『普遍単位』が「いくつ分」という表し方で面積の概念を説明した。児童は、試行錯誤する中で「マス目（1平方センチメートルと言う『普遍単位』）を数えればいい。」と理解でき、そのことが「面積の求め方」の学習につながり、自然な思考過程を経て、「面積」を理解できた。</p> <p>また、実際に新聞紙で1平方メートルの正方形を作って大きさを実感できた。</p> <p>複合面積では、前時までの学習経験・学習成果により、「面積のいろいろな求め方」についての理解も深まった。補助線の使用は効果的であった。</p> <p>面積の求め方を何回も繰り返し表現することで、日本語表現も正確にできるようになった。練習問題においても、自然に公式を表記していた。</p> <p>② その他（他の在籍学級の児童や学校・保護者等学習環境に対する波及効果等）</p> <p>対象児童が自信を持って学習に取り組むようになり、授業終了後も、対象児童と周りの児童が一緒になって練習問題を解く等、対象児童と周りの児童との関係が深まった。</p>
---

### 4 課題

<p>○ 高学年になるにしたがって、学習内容が「具体物・具体化」→「抽象概念・抽象化」へと変化するので、学習方法においても様々な工夫が求められる。</p> <p>具体物を用いて取り組める学習内容なら良いが、必ずしも具体物で補える学習内容ばかりではなくはなくなってくるのが現実である。そのため、児童にわかりやすくするための教材・教具の開発や指導法の工夫が求められている。</p>
--